

所 管 事 務 調 査 報 告

令和6年9月10日

洞爺湖町議会議長 大 西 智 様

経 済 常 任 委 員 会
委員長 石 川 邦 子

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

記

○所管事務調査

- 1 調査事項 「縄文シティサミット in とうや湖」の取り組みについて
- 2 調査日 令和6年8月27日（火）
- 3 出席委員 石川邦子委員長、大屋副委員長、千葉委員、今野委員、
石川諭委員、板垣委員
- 4 説明員等 田仁観光振興課長、角田社会教育課長、
TOYAKO縄文ガイドの会副会長 佐藤節夫 氏
- 5 調査結果

史跡「入江・高砂貝塚」が「北海道・北東北縄文遺跡群」として世界文化遺産に認定されてから3年が経過し、この度、令和6年10月7日から10月8日の2日間にかけて、15年ぶりに「縄文シティサミット in とうや湖」が洞爺湖町において開催されることから、文化財に対する町民の理解を深め、整備が完了した「入江・高砂貝塚」や世界遺産「北海道・北東北縄文遺跡群」の更なるPRへ向けて、それら取り組み状況等についての調査を実施し、併せて「TOYAKO縄文ガイドの会」佐藤副会長より、入江・高砂貝塚館の展示物等の説明をいただいた。

入江・高砂貝塚館については、「TOYAKO縄文ガイドの会」の協力により定期的にボランティアガイドが実施されており、また「実行委員会プレサミット部会」においても縄文シティサミットまでの機運醸成のための取り組みとして、土器づくりや勾玉づくりなど「子どもの日の縄文体験」や「縄文まつりの開催」加盟都市の学芸員による「縄文講演会」を2回開催するなど、積極的に各イベントでのPRが行われている。

しかし、貝塚館の展示で修繕が必要な箇所があること、また地域住民や観光客が参加しやすい周知の方法をとるなど、多くの町民や観光客が縄文シティサミットに関心を持つよう様々な情報発信を繰り返し行い、町全体で取り組む体制で進めていただきたい。